

水田を彩る観賞用水稻新品种 「祝い茜」、「祝い紫」

観賞用水稻とは、食用の水稻と異なり、色の着いた葉や穂を観賞して楽しむ水稻です。

東北農研が育成した観賞用水稻として、既に葉に白い縦縞が入り、穂が紫色の「奥羽観383号」が品種登録されていますが、今回新たに「祝い茜（いわいあかね）」、「祝い紫（いわいむらさき）」を育成しました。

《特徴》

出穂期は、「祝い茜」は「あきたこまち」よりやや遅い“早生の早”、「祝い紫」は「ひとめぼれ」より遅い“晩生の早”です。稈長は「祝い茜」は極短稈、「祝い紫」はやや短稈で、ともに倒伏に強く栽培が容易です。

育苗から出穂までは一般品種と同様に葉は緑色ですが、出穂後は「祝い茜」は穂に赤褐色の長い芒（籾の先端の毛）を持ち、籾殻も赤色になるため、穂揃い期には穂全体が赤く見えます（写真1）。一方、「祝い紫」は紫色に染まった長い芒



写真1／夕日に映える「祝い茜」



写真2／青空に映える「祝い紫」

低コスト稲育種研究東北サブチーム

中込弘二
NAKAGOMI, Koji



と籾殻を持つため、穂揃い期以降には穂全体が紫色に見えます（写真2）。

観賞に適した期間は気象条件にもよりますが、「祝い茜」は出穂から出穂後3週間程度で、その後は芒や籾殻の赤色があせてきます。「祝い紫」は穂の色あせが少なく、成熟期でも十分に楽しむことができます。その後は芒や籾殻の赤色があせてきます。「祝い紫」は穂の色あせが少なく、成熟期でも十分に楽しむことができます。

《利用方法》

観賞用水稻は、切り花やドライフラワー（写真3）、フラワーアレンジの材料として利用が期待されています。また、転作が求められている水田の新たな有効利用法の一つとして景観作物、田んぼアートの材料としても利用できます。

観賞用水稻として「奥羽観383号」「祝い茜」「祝い紫」の3品種が揃い、種類が増えたことにより、観賞用水稻が広く普及することを期待します。



写真3／ドライフラワー
（左：祝い茜、右：祝い紫）